

インド学仏教史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
インド学概論	アーリヤ人の宗教と生活	2	西村 直子	3	水曜3限
インド学概論	ヴェーダ祭式を巡る神話, 議論, その展開	2	西村 直子	4	水曜3限
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその1 ー	2	桜井 宗信	3	月曜3限
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその2 ー	2	桜井 宗信	4	月曜3限
パーリ語	パーリ語入門	2	西村 直子	3	水曜5限
パーリ語	パーリ語講読	2	西村 直子	4	水曜5限
チベット語	古典チベット語初級文法 Ⅰ	2	桜井 宗信	3	月曜2限
チベット語	古典チベット語初級文法 Ⅱ	2	桜井 宗信	4	月曜2限
インド学各論	祭式文献購読 ヴェーダ 散文選	2	西村 直子	5	木曜2限
インド学各論	祭式文献購読 ヴェーダ 散文選	2	西村 直子	6	木曜2限
インド学各論	初期ヴェーダ研究ー ー神道の終着点をめぐっ て	2	講師(非)	6	集中講義
インド仏教史各論	bSod nams rtse mo 著『タ ントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	5	火曜2限
インド仏教史各論	bSod nams rtse mo 著『タ ントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	6	火曜2限
インド学演習	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	5	火曜5限
インド学演習	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	6	火曜5限
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍 論』の講読	2	桜井 宗信	5	月曜1限

インド学仏教史

インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読	2	桜井 宗信	6	月曜1限
----------	------------------	---	-------	---	------

科目名：インド学概論

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB33301, 科目ナンバリング：LHM-PHI203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：アーリヤ人の宗教と生活

2・授業の目的と概要： 本講義では、最古の『リグヴェーダ』（紀元前 1200 年頃編集固定）をはじめとする各ヴェーダ学派の諸文献に基づき、アーリヤ諸部族が持っていた宗教とその整備過程、並びに社会の変化を辿りながら、各学派、各文献ジャンルの特徴について概説する。できるだけ多くの原典翻訳に触れることによって、伝承実態の理解をも目指す。

3. 学習の到達目標：・当時の人々が世界をどのように理解していたかを、インド最古の宗教文献群ヴェーダ Veda の伝承に則して把握することができる。

・宗教儀礼および宗教文献の整備と社会の変化とが連動していることが理解できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の概要 インド学 サンスクリット語と印欧語族 インダス文明とアーリヤ人
 2. アーリヤ人の宗教と生活 1 移住遊牧生活から定住生活へ： 異部族との接触、祭官階級と王族階級（ヴァルナ [四姓] を巡る議論）、都市国家の成立（自由思想家達の台頭と仏教興起を視野に入れて）
 3. アーリヤ人の宗教と生活 2 ヴェーダ祭式概説： 部族全体の繁栄を祈願する祭式と、部族長個人のライフステージに応じて行う祭式
 4. アーリヤ人の宗教と生活 3 ヴェーダ文献概説： ヴェーダ学派と文献ジャンル、祭官組織
 5. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力 1 文献の編集方針と祭官家系、伝承スタイル、世界の創造と人類の起源
 6. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力 2 インドラ讃歌
 7. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力 3 対話讃歌 ブルーラヴァースとウルヴァシー
 8. アタルヴァヴェーダ 呪法の伝統
 9. ヤジュルヴェーダと祭式の整備 1 祭官組織とヤジュルヴェーダ学派、マントラとブラーフマナ、祭式整備の過程
 10. ヤジュルヴェーダと祭式の整備 2 神々との相互関係、神話、神学議論
 11. ヤジュルヴェーダと祭式の整備 3 祭式整備に見る社会の変化
 12. サーマヴェーダ ソーマ祭が果たした役割： 大規模祭式と王権儀礼
 13. 諸学派のブラーフマナ文献 神学議論と神話による権威付け
 14. ウパニシャッド 1 その位置づけと意義
 15. ウパニシャッド 2 神学者たちの論争
- ※上記は必要に応じて変更する場合がある。

5. 成績評価方法：課題提出（随時，40％），期末レポートまたは試験（60％）

6. 教科書および参考書：資料を配付する。参考書は授業で指示する。

7. 授業時間外学習：予習として前回の資料と指示された参考資料に目を通す。復習も同様に行う。

講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

後期のインド学概論と併せて履修することが望ましい。

科目名：インド学概論

曜日・講時：水曜3限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB43301, 科目ナンバリング：LHM-PHI203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ヴェーダ祭式を巡る神話、議論、その展開

2・授業の目的と概要：本講義では、アーリヤ人の宗教文献群「ヴェーダ」から、特に紀元前800年頃以降に順次編集された文献を中心に、当時の人々の死生観と後の仏教時代に確立した「業と輪廻」の思想について概説する。できるだけ多くの原典翻訳に触れ、アーリヤ諸部族の定住化に伴う社会の変化を個々の議論から理解することを目指す。

3. 学習の到達目標：・当時の人々の死生観を、インド最古の宗教文献群ヴェーダ Veda の伝承に則して把握することができる。
・仏教時代に確立した「業と輪廻」の思想が、ヴェーダ以来の議論を背景としていることが理解できる。
・宗教儀礼及び神学議論の整備と社会の変化とが連動していることが理解できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- なぜ祭式を行うのか1 祭式の目的とその変化
 - なぜ祭式を行うのか2 息子の獲得 胎児の発生説に論じられる家系の継続
 - なぜ祭式を行うのか3 なぜ地上に再生するのか 胎児の発生説に論じられる個人の継続
 - なぜ祭式を行うのか4 死後の世界 「再死」とその克服
 - なぜ祭式を行うのか5 エネルギーの循環と供物の循環
 - なぜ祭式を行うのか6 受け継がれてゆく「私」 五火二道説
 - 自己の原理と宇宙の原理1 シャーンディリヤの梵我同一説
 - 自己の原理と宇宙の原理2 ウッターラカ・アールニの「有」の教説
 - 自己の原理と宇宙の原理3 ヤージュニャヴァルキヤのアートマン論
 - 祭式からの離陸1 自由思想家たちの時代とブッダ 沙門果経
 - 祭式からの離陸2 輪廻からの解脱 不死の門
 - 祭式からの離陸3 祭官階級、王族階級、法律の整備
 - ヴェーダ補助学の伝統と展開1 法律文献の登場
 - ヴェーダ補助学の伝統と展開2 文法学と諸分野の学問、哲学、医学、文学等
 - 宗教と社会との連動 共同体と個人
- ※上記は必要に応じて変更する場合がある。

5. 成績評価方法：課題提出（随時、40%）、レポートまたは試験（60%）

6. 教科書および参考書：資料を配付する。参考書は授業で指示する。

7. 授業時間外学習：予習として前回の資料並びに指示された参考資料に目を通し、復習も同様に行うこと。

講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

原則として、前期のインド学概論の履修者であること。

科目名：インド仏教史概論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB31301, **科目ナンバリング：**LHM-PHI204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：インド仏教史概説－その 1－

2・授業の目的と概要： 釈尊（紀元前 5 世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、初期仏教の思想とその展開の一端を中期中観派の段階まで把握することを目指す。

3. 学習の到達目標： 釈尊から中期中観派までのインド仏教に関する基礎知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論：仏教成立時代の社会と思想の概略
2. 釈尊の生涯と主な事蹟
3. 初期仏教の思想- 1 -
4. 初期仏教の思想- 2 -
5. 初期教団とその分裂
6. 『俱舍論』を中心とした説一切有部の思想- 1 -
7. 『俱舍論』を中心とした説一切有部の思想- 2 -
8. 大乘仏教の勃興
9. 初期大乘経典- 1 -
10. 初期大乘経典- 2 -
11. ナーガールジュナの思想- 1 -
12. ナーガールジュナの思想- 2 -
13. 瑜伽行唯識派の思想- 1 -
14. 瑜伽行唯識派の思想- 2 -
15. 中期中観派の思想

5. 成績評価方法：レポート [100%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず，教員が作成したドキュメント資料及び動画資料を使用。

7. 授業時間外学習：レポート作成の準備も兼ねて，講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

オンデマンド型オンライン形式で実施する。

参考書は各単元において随時追加紹介を行う。

科目名：インド仏教史概論

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB41302, **科目ナンバリング：**LHM-PHI204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：インド仏教史概説－その 2－

2・授業の目的と概要： インド仏教における「密教」の占める位置とその意味について学んだのち、基本的な専門用語にも留意しながら、初期から後期まで史的展開に従って「インド密教の概略」を把握し、併せてインド密教と密接な繋がりを持っていたチベット仏教史の概略をも理解することを目指す。

3. 学習の到達目標：インド密教及びチベット仏教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論：インド密教とは何か
2. 初期インド密教 -1-
3. 初期インド密教 -2-
4. 初期インド密教 -3-
5. 中期インド密教 -1-
6. 中期インド密教 -2-
7. 中期インド密教 -3-
8. 後期インド密教 -1-
9. 後期インド密教 -2-
10. 後期インド密教 -3-
11. 後期インド密教 -4-
12. 後期インド密教 -5-
13. 後期インド密教 -6-
14. チベット密教 -1-
15. チベット密教 -2-

5. 成績評価方法：レポート [100%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず，教員が作成したドキュメント資料及び動画資料を使用。
参考書は各単元において随時追加紹介する。

7. 授業時間外学習：レポート作成の準備も兼ねて，講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

オンデマンド型オンライン形式で実施する。

「インド仏教史概説－その 1－の既習者であること」を履修の原則とする。

科目名：パーリ語

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB33501, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：パーリ語入門

2・授業の目的と概要：サンスクリット文法を基に，パーリ語への歴史的変化に注目しながら，基本事項を学ぶ。 Geiger, A Pāli Grammar を参考にする。その後，Anderson, A Pāli Reader を用い，具体的テキストに即して，文法事項を確認しながら原典を読む。前期はブッダの前生譚である「ジャータカ」を扱う。必要な参考書，研究文献をその都度確認しながら，合理的な訓練に努める。

3. 学習の到達目標：サンスクリット語の知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション (教科書及び参考書について，取り上げる題材の概要，予習の進め方，授業の進め方等について説明)
- 2 「スンスマーラ・ジャータカ」 (1)
- 3 同 (2)
- 4 同 (3)
- 5 同 (4)
- 6 「バカ・ジャータカ」 (1)
- 7 同 (2)
- 7 同 (3)
- 8 同 (4)
- 9 「シーハチャンマ・ジャータカ」
- 10 「ササ・ジャータカ」 (1)
- 12 同 (2)
- 13 同 (3)
- 14 同 (4)
- 15 同 (5)

※上記内容は必要に応じて変更することがあり得る

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)

6. 教科書および参考書：Geiger—Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader。後者は大学に必要部数が揃っているが，自分で持っていて後まで役立つ。辞書，参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する。

7. 授業時間外学習：授業は，最初はゆっくり進めるが，後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は，可能な範囲でよいので，単語を調べ，語形を確定し，訳すように努力すること。予習が難しい場合は，授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

後期のパーリ語と併せて履修することが望ましい。

科目名：パーリ語

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB43501, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：パーリ語講読

2・授業の目的と概要：文法事項，シンタクス，仏教用語などについて，繰り返し復習確認しながら，Anderson の Reader から抜粋して読む。ジャータカ，ブッダの伝記，ダンマパダ，ミリンダパンハーなど，言語と内容の両面を大切にしながら取り組む。

3. 学習の到達目標：前期に習得した能力を基に，比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)
- 2 同 (2)
- 3 同 (3)
- 4 同 (4)
- 5 「ブッダの誕生」(1)
- 6 同 (2)
- 7 同 (3)
- 8 同 (4)
- 9 「四門出遊」(1)
- 10 同 (2)
- 11 同 (3)
- 12 同 (4)
- 13 『ダンマパダ』より
- 14 『ミリンダパンハー』より(1)
- 15 同 (2)

※上記内容は必要に応じて変更することがあり得る

5. 成績評価方法：授業への準備状況（40%）および授業で示される理解度（60%）

6. 教科書および参考書：Geiger—Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader。後者は大学に必要な部数が揃っているが，自分で持っていて後まで役立つ。辞書，参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

7. 授業時間外学習：受講者は単語を調べ，語形を確定し，訳すように努力すること。予習が難しい場合は，授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

3セメスターのパーリ語を受講していることが望ましい。初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。

科目名：チベット語

曜日・講時：月曜2限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB31204, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古典チベット語初級文法 I

2. 授業の目的と概要： チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。
教科書の例文に施されている適切な邦訳が，どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで，読解力の養成を計る。

3. 学習の到達目標：(1) チベット文字とその正書法を理解し，正しく音読出来るようになる。
(2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. チベット文字発音法・正書法-1-
2. チベット文字発音法・正書法-2-
3. チベット文字発音法・正書法-3-
4. 古典チベット語初級文法-1-
5. 古典チベット語初級文法-2-
6. 古典チベット語初級文法-3-
7. 古典チベット語初級文法-4-
8. 古典チベット語初級文法-5-
9. 古典チベット語初級文法-6-
10. 古典チベット語初級文法-7-
11. 古典チベット語初級文法-8-
12. 古典チベット語初級文法-9-
13. 古典チベット語初級文法-10-
14. 古典チベット語初級文法-11-
15. 古典チベット語初級文法-12-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書：藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；初回時に配布の予定）

7. 授業時間外学習：予習時には教科書記載チベット文字例文の音読練習を行い，復習時には新出事項の確認-発音法・正書法
学習時には各文字の発音・書取練習，文法学習時には新出チベット語単語や重要文法用語の記憶などを行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

【重要】 原則として「インド学仏教史専修」所属の学生のみ履修可。

科目名：チベット語

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB41203, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：古典チベット語初級文法Ⅱ

2・授業の目的と概要： 先ず文法事項の復習と理解確認を兼ねて短い笑話を読み、次に『賢愚経』の一部の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。但し前期における進度によっては、文法事項の補足を先ず行う場合がある。

3. 学習の到達目標：纏まった分量のテキストを相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、古典チベット語で著された文献の読解力の深化を図る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. チベット語テキスト訳読-1-
2. チベット語テキスト訳読-2-
3. チベット語テキスト訳読-3-
4. チベット語テキスト訳読-4-
5. チベット語テキスト訳読-5-
6. チベット語テキスト訳読-6-
7. チベット語テキスト訳読-7-
8. チベット語テキスト訳読-8-
9. チベット語テキスト訳読-9-
10. チベット語テキスト訳読-10-
11. チベット語テキスト訳読-11-
12. チベット語テキスト訳読-12-
13. チベット語テキスト訳読-13-
14. チベット語テキスト訳読-14-
15. チベット語テキスト訳読-15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書：1. 短い笑話 1 編

2. 『賢愚経』（いずれもコピーを配布する）

7. 授業時間外学習：予習時に辞書を用いながら自らテキストの翻訳を行い、授業で発表出来るように準備する。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

【重要】 原則として「インド学仏教史専修」所属の学生のみ履修可。

科目名：インド学各論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB54202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選

2・授業の目的と概要：本講義では『マイトラーヤニー サンヒター』、『カタ・サンヒター』(B.C. 800 頃以降)等におけるマールターンダの神話の各ヴァージョンを取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Schroeder の校訂本等を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

3. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2-15 Martanda の神話原典講読

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%)、授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：Maitrāyaṇī Samhitā 及び Katha-Samhitā (Ed. Schröder); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen; Gotō: Old Indo-Aryan Morphology; MacDonnell, Vedic Grammar for Student; Delbrück, Altindische Syntax; Whitney, Sanskrit Grammar 等。

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学各論

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB64201, **科目ナンバリング：**LHM-PHI303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選

2・授業の目的と概要：本講義では『マイトラーヤニー サンヒター』、『カタ・サンヒター』(B.C. 800 頃以降)『タイッティリーヤ・サンヒター』(B.C. 700 頃以降),『シャタパタ・ブラーフマナ』(B.C. 650 頃以降)における「ヤジュニャとダクシナーとの結婚」の神話の各ヴァージョンを取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Schroeder の校訂本等を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

3. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2-15 Yajna と Dakṣiṇā との結婚の神話原典講読

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：Maitrāyaṇī Samhitā 及び Katha-Samhitā (Ed. Schröder); Taittirīya-Samhitā (Ed. Weber); Śatapatha-Brahmaṇa (Ed. Weber); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen; Gotō: Old Indo-Aryan Morphology; MacDonnell, Vedic Grammar for Student; Delbrück,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：講師（非）

コード：LB98821, **科目ナンバリング：**LHM-PHI303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：初期ヴェーダーンタ研究---神道の終着点をめぐって

2・授業の目的と概要： 神道と祖道の二道説は古ウパニシャッドの代表的教説の一つであるが、輪廻を脱するための神道の終着点はウパニシャッドにより表現を異にしている。一元論哲学派であるヴェーダーンタの基本典籍『ブラフマ・スートラ』には、二人の論師が神道の終着点が何であるかについて論争したことが記録されており、ヴェーダーンタ学派ではこの論争の解釈をめぐって対立が起きた。この授業ではこの論題に関して、まずシャンカラの注釈を読み、次にバースカラの注釈を読んで、古代から中世初期にかけてのバラモン思想の進展の一端を明らかにする。

3. 学習の到達目標： サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてヴェーダーンタ学派内の神学的論争の一端を理解する。梵我一如の悟りは瞑想を含む行為を超えているとするシャンカラの不二一元論と、瞑想を含む行為により梵我一如の悟りに漸次到達できるとするバースカラの知行併合論は、中世初期ヴェーダーンタの最も重要な対立軸である。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりである。

1. 問題の所在についての講義
2. シャンカラ注講読 (Brahmasūtra 4.3.7-8)
3. シャンカラ注講読 (Brahmasūtra 4.3.9-13)
4. -10. シャンカラ注講読 (Brahmasūtra 4.3.14)
11. -14. バースカラ注講読
15. 全体のまとめ

5. 成績評価方法：出席（30%）と講読（70%）での貢献度を併せて総合的に判断する

6. 教科書および参考書：シャンカラ註およびバースカラ註の各サンスクリット原典，シャンカラ註の翻訳のコピーを配布する。

7. 授業時間外学習：原典（シャンカラおよびバースカラ）と翻訳（シャンカラ）のコピーを配布するので，あらかじめテキストを読解した上で授業に臨むこと

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者はサンスクリット語文法の基礎的知識をもっていることを履修条件とする。

科目名：インド仏教史各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB52202, **科目ナンバリング：**LHM-PHI304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

2・授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

3. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ概論』講読 -1-
2. 『タントラ概論』講読 -2-
3. 『タントラ概論』講読 -3-
4. 『タントラ概論』講読 -4-
5. 『タントラ概論』講読 -5-
6. 『タントラ概論』講読 -6-
7. 『タントラ概論』講読 -7-
8. 『タントラ概論』講読 -8-
9. 『タントラ概論』講読 -9-
10. 『タントラ概論』講読 -10-
11. 『タントラ概論』講読 -11-
12. 『タントラ概論』講読 -12-
13. 『タントラ概論』講読 -13-
14. 『タントラ概論』講読 -14-
15. 『タントラ概論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み (100%)

6. 教科書および参考書：rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八巻, 中国蔵学出版社, 2015 年 8 月, pp. 4-139.

※ コピーを配布する

7. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB62203, **科目ナンバリング：**LHM-PHI304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読

2・授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。

3. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『タントラ概論』講読 -1-
2. 『タントラ概論』講読 -2-
3. 『タントラ概論』講読 -3-
4. 『タントラ概論』講読 -4-
5. 『タントラ概論』講読 -5-
6. 『タントラ概論』講読 -6-
7. 『タントラ概論』講読 -7-
8. 『タントラ概論』講読 -8-
9. 『タントラ概論』講読 -9-
10. 『タントラ概論』講読 -10-
11. 『タントラ概論』講読 -11-
12. 『タントラ概論』講読 -12-
13. 『タントラ概論』講読 -13-
14. 『タントラ概論』講読 -14-
15. 『タントラ概論』講読 -15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み (100%)

6. 教科書および参考書：rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八巻, 中国蔵学出版社, 2015 年 8 月, pp. 4-139.

※ コピーを配布する

7. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド学演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB52505, **科目ナンバリング：**LHM-PHI311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究

2・授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 VII 88 「Varuna 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

3. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2-15 R.gveda VII 88

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%) および授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：R.gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTÔ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド学演習

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西村 直子

コード：LB62503, **科目ナンバリング：**LHM-PHI311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究

2・授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 VII 33 「Vasistha 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。

3. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)

2－15 R.gveda VII 33

5. 成績評価方法：授業への準備状況 (30%) および授業で示される理解度 (70%)

6. 教科書および参考書：R.gveda-Samhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTÔ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,

7. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。

科目名：インド仏教史演習

曜日・講時：月曜 1 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB51101, **科目ナンバリング：**LHM-PHI312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2・授業の目的と概要： Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では同書第 1 章（「界品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書： 用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舎論 I 界品』（江島恵教著）、山喜房仏書林、平成 15 年。
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

7. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史演習

曜日・講時：月曜 1 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：桜井 宗信

コード：LB61101, **科目ナンバリング：**LHM-PHI312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2・授業の目的と概要： Vasubandhu（世親）の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要欠くべからざる基本典籍である。

この授業では同書第 1 章（「界品」）の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

3. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

5. 成績評価方法：授業・発表への取り組み（100%）

6. 教科書および参考書： 用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舎論 I 界品』（江島恵教著）、山喜房仏書林、平成 15 年。
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舎論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舎釈論』（真谛訳）。

※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

7. 授業時間外学習：予習時に前記基本資料を訳読すると共に、重要術語の内容確認等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。